



家庭学習の充実を図るための 参考資料

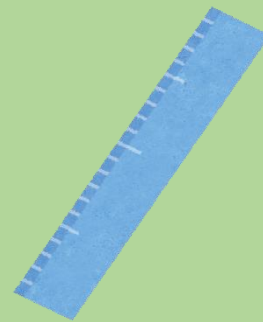


学力向上に効果的な家庭学習を進めるためには、子供たちに一人で学習する方法を身に付けさせる必要があります。また、学校や家庭、地域が、学力の基盤となる基本的な生活や学習習慣、学び方について共有し、協力して取り組むことが不可欠です。この参考資料は、「平成29年度学力向上コアティーチャー養成・活用事業」の受講教員が、秋田県での実地研修で学んだことや、所属校での実践から得た成果などについてまとめたものをもとに作成しました。

主な内容は、「『家庭学習の手引き』を作成するポイント」、「家庭学習の内容」、「家庭学習の習慣化を図る手立て」です。この参考資料を効果的に活用し、学校の課題や子供の実態に応じた家庭学習の充実に取り組みしましょう。



和歌山県教育委員会



1. 「家庭学習の手引き」を作成するポイント

(1) 保護者用「手引き」のポイント

保護者が家庭学習にどのように関わればよいか分かるように、「家庭学習の手引き」を作成し、懇談会や学級通信等で、機会を捉えて「手引き」を活用した教育活動を行いましょう。

<例> 家庭学習の手引き (保護者の方へ)



○家庭学習とは

学校では、学習内容が定着するように様々な取組をしています。家庭学習を行うことで、その定着はより確かなものになります。また、家庭学習は子供が自ら学ぶ習慣を身に付けるためにとっても大切です。家庭と学校が共通理解のもと、子供の学習内容の定着と学習の習慣化、そして自主性を育ていけるよう、ご協力よろしくお願い致します。

○子供への働きかけは

子供が学習している内容にできるだけ目を通して、興味を示し、励ましてあげてください。そうすることで、子供はどんどんやる気を見せ始めます。もし、子供が学習内容について尋ねてきたら、一緒に考えたり調べたりする時間をとってください。また、家庭学習を通して一日の出来事を聞く時間を設け、子供の様子や成長を知る機会としてください。

「ながら勉強」は学習内容の定着率を低下させます。テレビやゲームを消した環境で学習できるよう、学習環境を整えてあげてください。家族の存在を感じられる居間で、落ち着いて学習を行うことも方法の一つです。

○規則正しい生活習慣を身に付けるために



早寝早起きを心がけ、朝ご飯は必ず食べさせてください。朝のエネルギーは一日の活力になります。また、外で遊ぶことや部活動等で定期的に運動をすることを心がけてあげてください。

家族の一員として、お手伝いなどの役割も、子供に与えてあげてください。

○家庭学習の約束

- ・毎日、決まった時間に家庭学習をさせてください。
- ・土日や夏休みといった休みの日も含めて、毎日、(10分×学年)の時間以上、学習をさせてください。
- ・テレビを消して学習をさせてください。
- ・宿題を終わらせてから、自主学習をさせてください。
- ・家庭学習が終わったら、学習内容を確認し、コメントやサインをしてあげてください。



家庭学習の意味や意図を、保護者にしっかりと説明し、協力をお願いしましょう。

学校教育目標を示し、育てたい子供の姿を具体的にあげるのもよいでしょう。

子供が自信をもてるような励ましや、家庭学習を通じたコミュニケーションの取り方、家庭で取り入れてほしい学習環境などを示しましょう。

生活リズムを整えることは、学力向上だけでなく、様々な面での子供の健やかな成長にとって大切です。早寝早起きや子供の放課後の過ごし方、読書の推奨等もあわせて示しましょう。

家庭学習の約束を保護者にもしっかり理解してもらい、子供と確認する時間をもってもらえるよう伝えましょう。懇談会等で子供の様子を聞く観点としても使えます。



(2) 児童・生徒用「手引き」のポイント

家庭学習だけでなく、学校の授業でも使えるよう、それぞれの学年に合わせた学習に向かう姿を、「明確な基準」を設けて示すことが大切です。

小・中学校9年間の「手引き」を一つの冊子にすることも効果的です。全ての学年が見通せ、「今の学年ではここまで、次の学年はここまでできるように」と見通しがもてたり、「ここまでできるようにになりたい」という意識が芽生えたりします。

<例> 家庭学習の手引き (5・6年生用)



○学習の基本は、まず準備から

・筆箱の中身

筆箱の中身は、けずった鉛筆5～6本（Bか2B）、消しゴム、定規、赤と青の色鉛筆を入れておきましょう。

・学校の机（道具箱）の中身

学校には、のり、はさみ、色鉛筆、下じき、分度器、30cm定規を用意しておきましょう。



各学校で必要なものを示しましょう。色鉛筆などは、授業での板書の色使いに合わせてとよいでしょう。

学年に合わせて、めざす子供の姿を示しましょう。教室の掲示に合わせるのもよいでしょう。

○話し上手・聞き上手になろう

- ・最後に「です」「ます」をつけて話しましょう。
- ・話す人が安心できる反応をしながら聞きましょう。
- ・みんなに聞こえる大きさの声で話しましょう。
- ・友達の意見に対して、自分は同じ意見か違う意見かを考えながら聞いたり、友達の意見と自分の意見を比べながら話したりしましょう。

家庭学習の意味や意図を、子供にしっかりと説明し、子供が意欲と必要感をもって家庭学習を行えるようにしましょう。そうすることで、家庭での学びが主体的になり、質・量ともに高まっています。

○どうして家庭学習をするの

学校では、学習内容が身に付くように勉強しています。しかし、学習内容をすぐに忘れないようにするためには、くり返し家庭学習をすることが大切です。また、みなさんが大人になったときには、自分で学ぶ力が必要となります。家庭学習では、この自分で学ぶ力、そして学ぶ習慣を身に付けることができます。学習内容と学ぶ習慣をしっかりと身に付けるとともに、自ら進んで学ぼうとする力をのばすため、家庭学習に取り組みましょう。

子供自身が家庭学習の目標（約束事）を宣言する欄を設けるのもよいでしょう。家庭学習に対する、子供自身の「めあて」になります。月末や学期末等には、必ずふり返りの機会をもちましょう。

○家庭学習の目標をたてよう

具体的な数字を入れて、家庭学習の目標を書きましょう。

<目標>

○家庭学習の約束

- ・毎日、決まった時間に家庭学習をしましょう。
- ・毎日、50分から1時間学習をしましょう。
- ・土日や夏休みといった休みの日は、毎日1時間以上学習をしましょう。
- ・テレビを消して学習をしましょう。
- ・宿題が終わったら、自主学習をしましょう。
- ・家庭学習が終わったら、おうちの人にサインをもらいましょう。



子供が理解できるように示しましょう。学習時間は、学年ごとに設定しましょう。

<めやす>

小学校：10分×学年

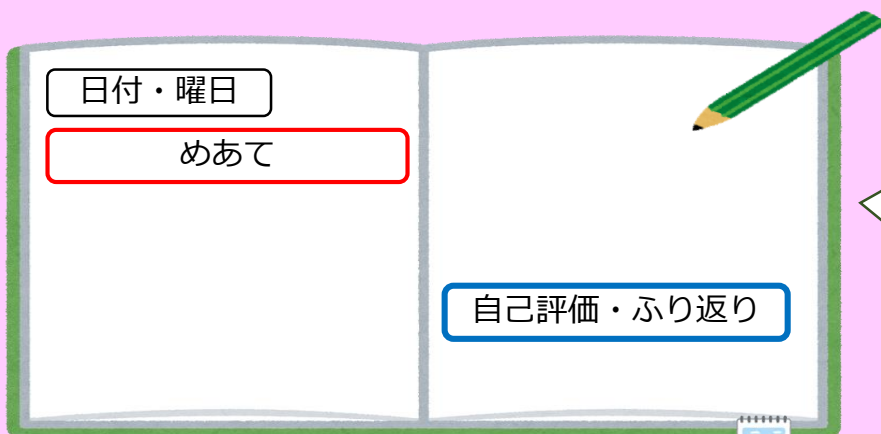
中学校：10分×(学年+6)+10分

長期休業中やテスト前には、特別に時間を設定しましょう。

保護者に家庭学習ノートを見せることを示してもよいでしょう。

○ノートの使い方

- ・日付、曜日を書きましょう。
- ・めあてを書いて赤でかこみましょう。
- ・ふり返りを書いて青でかこみましょう。



子供が見通しをもって自主的に取り組むことができるよう、ノートの使い方を示しましょう。形式は授業の板書に合わせてよいでしょう。

○計画表

学習計画を立てましょう。

<4月・1週目>

	15時	16時	17時	18時	19時	20時
()日 月曜		← サッカー →		← 夕食 →	← 家庭学習 →	
()日 火曜						



小学校高学年～中学校では、月や週の予定を事前に配付し、子供に学習計画を立てさせる機会をつくりましょう。テストや行事などの日程を意識して、今何をするべきか明確化することで、集中して効率的な行動ができるようになります。

○家庭学習のふり返り

目標への取り組みをふり返りましょう。

目標が達成できたかを検証する方法（チェックシート、アンケート、面談等）を使って、取組状況を点検しましょう。結果によっては、目標や内容の変更などを指導しましょう。

2. 家庭学習の内容

教師の考え方や指導の違いによって、子供の家庭学習の様子や効果は変わってきます。学校や学年で統一した家庭学習の考え方、在り方を検討し、子供、教職員、保護者の三者で共通理解を図りましょう。

○学年に応じた家庭学習の在り方について

学年	家庭学習の内容例
小学校 低学年	<u>宿題中心</u> 読み・書き・計算などの基本的な学習を行う。 (音読・漢字・計算・日記・視写・読書等)
小学校 中学年	<u>自主学習の導入</u> 宿題に加え、簡単な予習や復習を行う。 (意味調べ・ローマ字練習・問題づくり等)
小学校高学年 — 中学校	<u>自主学習中心</u> 自主学習(予習・復習)を増やす。 (今日の授業のまとめ・次時の学習内容の確認・発展的な学習等)

○小学校低学年の家庭学習の内容について

以下の内容を、主に宿題として取り組めるようにしましょう。また、指導事項に即した基準(大きな声で・句読点に気をつけて等)を明確に示しましょう。

<国語の学習>

- 教科書の音読・暗唱
- 文字(ひらがな・カタカナ・漢字)の練習
- 教科書の視写

<算数の学習>

- 計算ドリル
- <その他>
- 日記(心に残ったことを書く)
- お手伝い
- 縄跳び
- 動植物の観察

※子供の実態に応じて、少しずつ自主学習を取り入れることもできます。

○小学校中学年から中学校の家庭学習の内容について

宿題に加えて、以下の内容を自主学習として取り組めるようにしましょう。

<国語・英語の学習>

- 作文(総合的な学習の時間での体験活動や週末の出来事について)
- 習った漢字、熟語を使っての文章作成
- 辞書を使った学習
- 新しく学習した表現技法を使っての文章作成

<算数・数学の学習>

- 教科書の練習問題や力だめしの問題
- 三角定規等の計器の使い方の練習
- 問題づくり

<理科や社会の学習>

- 授業内容の復習や学習用語の整理
- 図や年表を用いての授業内容のまとめ
- 次の授業の準備となる調べ学習
- <その他>
- 授業で学習したことを教科書やノートで確認
- 授業のふり返りで、子供が「難しかった」と示した学習内容の復習
- 子供自身が興味のあることについての調べ学習(本・新聞・テレビ)
- 美術館、博物館に出かけての鑑賞
- 地域の行事やボランティア活動への参加

3. 家庭学習の習慣化を図る手立て

宿題の出し方を工夫したり、自主学習の進め方を指導したりすることは、子供の家庭学習の習慣化を図るために不可欠です。学校で下記のような手立てを検討し、共通認識のもと実践しましょう。

<小学校低学年の間は>

- 始めは教師側でドリル等の範囲を指定し、徐々に、児童がいくつかの選択肢の中から学習内容を選べるようにしていく。

<小学校中学年から>

- 中学年の間に、ドリル的な反復学習から思考力・表現力・判断力を要するものへと課題を移行させる。

<中学校では>

- 家庭学習の点検は、学級担任だけではなく、部活動顧問や管理職を交えて行う（点検者を見据えた計画的な学習の実施）。
- 家庭学習ノートの提出を部活動参加の条件にする（学習と部活動の両立を意識）。

<どの学年でも取り組むことは>

- 授業と家庭学習を関連させ、家庭学習の内容や学習の仕方を授業で学ばせる。
- 小テストや月1回程度の基礎基本の確かめテストを行い、その範囲を意識させて取り組ませる。
- 子供に家庭学習の積み上げを意識させ、達成感を感じさせるノートにする（表紙に何冊目のノートかが分かる工夫をする等）。
- よい家庭学習については、その子供をほめたり、掲示などで家庭学習の内容を紹介したりする機会を設ける。
- 提出された家庭学習ノートは必ず点検し、間違いを直したり、子供たちの学習意欲を引き出す励ましをコメントしたりする。
- 家庭学習週間等、学校全体で家庭学習に集中的に取り組む機会を設ける。
- 皆と同じ課題が難しい子供や学習内容の定着に課題のある子供には、個別に学習課題を提示する。
- よりよい家庭学習にするために、学級活動等で子供に話し合わせ、改善案を考えて取り組ませる。
- 家庭学習の取組についてのふり返りをアンケート等で行い、結果をグラフ等で可視化して、自己点検をさせるとともに、自己改善につなげる。



※本資料の他に、学びの丘ウェブページに家庭学習の取組についてのコンテンツ「子供の学力を高める家庭学習のあり方～家庭学習力アンケートを活用した取組を基盤として～」の動画研修パッケージがあります。あわせてご活用ください。

